

旭川市における方言の消失

野村綾心¹ 西口純代²¹小樽商科大学 商学部経済学科 ²小樽商科大学 言語センター
ao1008mukku1231@icloud.com nishiguchi@res.otaru-uc.ac.jp

概要

近年、インターネットやソーシャルネットワークサービスの普及により日本語の標準化が進んでいる。そして、この時代の変化は新語の導入などによる日本語の変化と共に、方言の多くを死語に変化させている。そこで、本稿は実際のアンケートをもとに、旭川市における死語へ変化する規則性と今後死語になりうる可能性の高い語句を検討した。アンケートの結果、(1)死語になるには祖父母が使わなくなった方言は使うことがない (2)今後死語になりうる可能性のある方言は、「おぼんです」「じょっぴんかる」「なまら」「こわい」であることを提唱する。

1 方言と北海道

1.1 方言の定義

オンライン『意味解説辞典』ⁱによれば、教科書などに記載してある文字や新聞、ニュースなどで話されている言語は「標準語」であり、その国の標準として認められた公的な場面で使われている言語のことを指し、日本は現在東京の言葉が「標準語」の基となっている。それに対し、「方言」とはある地方だけに使われている言語のことを指す。例えば、「さびお」、「うるかす」などがある。また、標準語と違う訛りのある言葉も方言と呼び、方言はその地域だけの言葉で、いくつかの地域によって区分され、それぞれの方言の特徴が異なっている。

1.2 北海道の歴史

北海道はかつて蝦夷地とよばれており、13世紀頃から本州の江戸時代にかけてはアイヌ民族独自の

文明があった。しかし、箱館戦争が終わると新政府は蝦夷地を北海道と任命し、開拓史を設置した。明治7年に屯田兵制度を設け、本州より多くの人々が押し寄せたため、北海道には本州の文化や言語が持ち込まれた。その中でも東北地方の方が多く、他にも北陸、関西地方がありかなりの影響を受けた。その証として、広島県の人々が北海道に移り渡り北広島を作り、奈良県の十津川村の人々が新十津川村を作るなど北海道には多くの人々が移り住んだことから、多くの言語や方言が持ち込まれたことが分かる。ⁱⁱ

1.3 北海道における標準語化

九州の2倍の敷地面積を誇る北海道は地域ごとに方言が違う。例えば、内陸の部の旭川や札幌では標準語に近い言葉が話されており、函館などの沿岸部などでは津軽弁や東北の方言が話されている。これは、札幌や旭川などの内陸部では沿岸部から多くの人々が集まってきたため、独自の方言ではコミュニケーションが取れず、必然的に共通語になったと考えられる。

1.3 旭川市を研究対象地域にした理由

前記の通り旭川市は北海道の中でも標準語化が進んだ都市であるため、方言がどのように世代間で推移したか考察できると判断したためである。筆者の野村が旭川市生まれであるため、研究しやすくアンケートも取りやすいと考えたためでもある。

ⁱ 引用ウェブサイト
「標準語」と「方言」の違いとは？分かりやすく解釈 | 意味解説辞典 (meaning-dictionary.com) (最終閲覧日 2022年1月12日)

ⁱⁱ 参考ウェブサイト

北広島市 - Wikipedia (最終閲覧日 2022年1月12日)
新十津川町 | 札幌開発建設部 (mlit.go.jp) (最終閲覧日 1月12日)

2 検証と考察

2.1 家族間（旭川市在住）における方言の

消失

言語の習得は両親や祖父母に影響されることが

表1 アンケート結果 方言の推移

標準語	1903年以前（旭川）	昭和初期生まれの祖父	昭和33年生まれの子	平成10年生まれの子	死語になる可能性
凍る（きびしくひえる）	しばれる	しばれる	しばれる	さむい、しばれる	低い
明明後日	やなあさって	しあさって	しあさって	しあさって	死語
一昨日	おとつい	おとつい	おとつい	おととい	低い
しもやけ	ゆきやけ	しもやけ	しもやけ	しもやけ	死語
おそろしい	おっかない	おっかない	おっかない	おっかない	低い
捨てる	なげる	なげる	なげる	なげる、すてる	低い
疲れた、倦怠感	こわい	こわい	こわい	つかれた	やや高い
片足飛び	けんけん	けんけん	けんけん	けんけん	低い
じゃがいも	ごしょいも	じゃがいも	じゃがいも	じゃがいも	死語
唐辛子	なんばん	なんばん	なんばん	とうがらし	高い
トウモロコシ	とーきび	とーきび	とーきび	とーきび	低い
そうしたら	不明	したっけ	したっけ	したっけ	低い
とても	不明	なまら	とても	とても	高い
大丈夫	不明	なんも	なんも	なんも	低い
こんばんは	不明	おばんです	こんばんは	こんばんは	高い
さわる	不明	ちよす	ちよす	さわる	やや高い
水に浸す	不明	うるかす	うるかす	うるかす	低い
めちゃくちゃ	不明	わや	わや	わや	低い
つめたい	不明	しゃっこい、ひゃっこい	しゃっこい、ひゃっこい	つめたい	やや高い
ゴミ集積場	不明	ゴミステーション	ゴミステーション	ゴミステーション	低い
もったいない	不明	もったいない	もったいない	もったいない	死語
平気	不明	へいき	へいき	へいき	死語
かわいい	不明	めんこい	かわいい、めんこい	かわいい、めんこい	低い
落ち着かない	不明	あずましくない	あずましくない	おちつかない	死語
うそくさい	不明	はんかくさい	うそくさ	うそくさ	高い
鍵をかける	不明	じょっぴんかる	鍵をかける	鍵をかける	高い

これは渡瀬昌彦『方言の地図帳』をもとに作成したものであり、選んだ方言は無作為である。一番左の列が標準語であり、左から2列目が旭川に住む明治生まれ話者が使っていた言葉、3列目は野村の祖父、4列目は野村の父、5列目は野村自身が用いる言葉である。まずは上から3行目の「しあさって」と10行目の「じゃがいも」に注目してもらいたい。明治生まれ話者は「しあさって」を「やなあさって」と話すが、野村の祖父は「しあさって」と話しており、明治から昭和初期にかけて変化している。また、「じゃがいも」も同様に変化している。そして、一度標準語に変化したものは平成生まれの野村まで続いている。そもそも野村はこの研究をするまで「じゃがいも」と「しあさって」に方言があったことすら知らなかった。このことから方言が祖父母などの2世

多い。そこで世代間でどういった言葉の変遷があるのか確かめることにした。表1がアンケートの結果である。

代前に左右されると考えた。つまり、祖父母が使わなくなった方言は孫世代には死語となるということ表1である。

2.2 今後旭川市において死語になる方言

次に今後死語となる方言を予測していく。旭川出身の20代前半8名に上記と同じアンケートをおこなった。以下がアンケート結果である。

なった方言は2世代後に死語になる可能性があるとして橙色に記し、どの世代も使っていないものは死語と記した。このアンケートより「疲れた」を意味する「こわい」、「とても」を意味する「なまら」、「こんばんは」を意味する「おぼんです」、鍵をかけることを意味する「じょっぴんかる」はみな青色、橙色もしくはすでに使っておらず死語になっていることが分かった。

3 今後の展望

今回、旭川市において「なまら」、「こわい」、「おぼんです」、「じょっぴんかる」の4つの言葉が死語になる可能性が高いと考えたが、「なまら」は全国的に周知されているし、近年方言を守ろうとするすばらしい活動が多く進められており、またSNSの普及により珍しい言葉を使えばすぐに世に出回るので簡単に死語になると断定はできない。そのため今後はより長期的なスパンでの調査が必要である。

参考文献

1. 渡瀬昌彦 (2019) 『方言の地図帳』. 講談社、東京.
2. 高知大学教育学部方言学研究室「日本語方言について解説—方言楽の館」 (最終閲覧日 2021年11月22日)
<http://ww4.tiki.ne.jp/~rockcat/kougi01.html>